



令和7年 西原町 二十歳のつどい



20歳を迎える皆さんの門出を祝福する「令和7年西原町二十歳のつどい」が1月12日にさわふじ未来ホールで開催されました。

参加者は、鮮やかな着物やスーツに身を包み、旧友との久しぶりの再会に笑顔があふれていました。

決意表明では、西原中学校区代表の小波津穂乃花さんと西原東中学校区代表の新垣隼さんの言葉に参加者は襟を正し、気持ちを新たに晴れやかなスタートをきりました。

今年は西原中学校区382名、西原東中学校区154名の計536名が希望を胸に二十歳を迎えました。

20歳を迎える皆さんの門出を祝福する「令和7年西原町二十歳のつどい」が1月12日にさわふじ未来ホールで開催されました。



西原東中学校区



西原東中学校区代表
新垣 隼

ハイサイ！今日、ここに集まったみなさんを見てみると、「西原町の未来は明るいなー！」と思わず笑顔になってしまします。

沖縄では「ぬちどうたから（命こそ宝）」という言葉があります。これまで私たちが無事に二十歳を迎えることができたのは、家族や先生、地域のみなさんのおかげです。この場を借りて、本当にありがとうございます。

私たちはそれぞれの島々や町、そして世界へ羽ばたいていきます。時には台風みたいな困難にぶつかることもあるかもしれませんが、西原の青い空と広い海を思い出して、自分らしく歩んでいきたいと思えます。そして、二十歳になったからといって急に完璧な大人にはなれませんが、少しずつ「ウチナーンチュの誇り」を胸に成長していきます。

西原中学校区



私たちが新成人の門出に際し、このような盛大な式典を開催していただき、誠にありがとうございます。

二十歳という節目の年に、中学時代を共に過ごした仲間たちとこの場に立てていること、とても嬉しく思うと同時に一層身の引き締まる思いがいたします。

現在私は、大学で看護の国家資格を取るための勉強をしています。生命が誕生するということの奇跡、そこにある幸せを守るお手伝いがしたいと思い助産師になることを目標に勉学に励んでいるところです。私たちの将来はきっと可能性に満ち溢れたものであるはずですが、どんな道に進みたくなくても、迷わずそこに向かっているように、今できることを、今、精一杯頑張っていると思います。



西原中学校区代表
小波津 穂乃花